



国際会長 (IP) Moon Sang Bong (韓国)

“Yes, we can change” 「私たちは変えられる」

“Courage to challenges” 「挑戦への勇氣」

会長 古田 和彦  
副会長 古賀 健一郎  
書記 金子 功  
会計 伊藤 誠彦  
直前会長 金子 功

アジア地域会長 (AP) 田中 博之 (東日本区)

“Action” 「アクション」

“With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」 担当主事

東日本区理事 (RD) 宮内 友弥 (東京武蔵野多摩)

「為せば、成る」

“No challenge, No fruit”

湘南・沖縄部部長 (DG) 佐藤 節子 (厚木)

「心を元気に きずなを深めあえるワイズをめざそう！」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Y's Men”

監事 松島 美一  
ブリテン 古賀 健一郎  
青木 一弘

### <今月の聖句>

押川 幸男

「狼は子羊と共に宿り  
豹は子山羊と共に伏す。  
子牛は若獅子と共に育ち  
小さい子供がそれらを導く。」  
(イザヤ書 11 章 6 節)

### 今月のひとこと

「いのちのための連帯、いのちを繋ぐリレー」

大江 浩



8月、愚かな戦争によって奪われた無数の命への鎮魂とヒロシマとナガサキの悲劇を二度と繰り返すまじ、と平和を誓い切に祈る月です。2017年度ノーベル平和賞を受賞した「ICAN (核兵器廃絶国際キャンペーン)」のベアトリス・フィン事務局長は授賞式

で語りました。「すべての国に呼びかけます。私たちの終わりではなく、核兵器の終わりを選びなさい。・・・私たちのこの運動は、理性を求め、民主主義を求め、恐怖からの自由を求める運動です。・・・私は死よりも生を選ぶ数十億人の代表者です」と。ヒバクシャ (平均年齢 82.06 歳) と共に歩む ICAN。唯一の被爆国でありながら、核兵器禁止条約に参加しない日本。ヒバクシャと共に歩まぬ当事国の首相は両

平和記念式典でこの条約に触れませんでした。恐れているか怯えているのでしょうか。核保有国の巨大な圧力ではなく、平和を希求する無数の声なき声の深さに。ICANの国境を越えた468団体の運動は「いのち」のための連帯です。

8月、私にとってもう一つの大事なイベントの月です。ワイズメンズクラブ湘南・沖縄部も協力して下さっている AIDS文化フォーラム in 横浜です。私は2002年から2005年までの4年間フォーラム事務局を務め、今は一ボランティアとして関わっています。今年、第25回を迎えた同フォーラム (テーマ: #リアルとつながる) では、3日間で延べ5,000人を超える参加者が集いました。このフォーラムは全てのLGBTや様々な困難によって生きづらい人々と共に生きる大変画期的かつユニークなプログラムです。その四半世紀の歩みは「生」と「死」の問題を、「他人事」ではなく「自分事」として生きようとしてきた人々の証でもあります。私たちは、これまでのフォーラムの歩みの中で、4人の大切な人を喪いました。同フォーラム運営委員長だった廣瀬誠医師 (2005年召天)、「ゲイリブ運動の先駆者」でフォーラム発足の牽引車であった南定四郎さん (2017年召天)、「パトちゃん」ことパトリック・ボンマリートさん (HIV陽性者、2013年召天) と「洪ちゃん」こと洪久夫さん (HIV陽性者、2018年召天) です。加えて言えばもう一人、2003年エイズ撲滅コンサートで、「あらゆる戦争や紛争より、多くの人々の命が誰にも顧みられずに、奪われている。エイズの問題は人権の問題である」と訴えたあのマンデラ・南ア大統領も2013年に天に召されました。少数者への差別偏見や人権の抑圧を我がこととして受け止め、それぞれの人生をかけて「共に生きた」方々の「いのちを繋ぐリレー」によってフォーラムは続けられてきました。私たちもその「いのちのリレー」に繋がっている一人です。

## <2018年7月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
13名	メン 10名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 2名 ゲスト 0名 合計 12名	77% (メーキャップ 0名) 前月修正出 席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

## <8月の行事予定>

### 強調月間「CS(Community Service)」

日	曜	時間	行事内容	場所
3-5	金		AIDS文化フォーラム	県民センター
21	火	18:30	とつか・鎌倉クラブ 合同例会兼納涼会	加藤邸
23	木	17:00	第二例会	驛の食卓
23	木	18:00	第一例会兼納涼会	驛の食卓

## 「7月第一例会報告」

金子 功

日時：7月12日(木) 18:30～20:30

場所：横浜中央YMCA501号室

出席者：青木、伊藤、今村、大江、大高、金子、古賀、田口、古田、松島

ビジター：佐藤節子部長、堀田哲郎部書記(以上厚木)



佐藤部長の挨拶

7月の例会は新年度を迎えるのキックオフ例会である。恒例に従い2017～2018年度の総会も行われると同時に、佐藤節子湘南・沖縄部長の公式訪問も兼ねる盛りだくさんのプログラムであった。

例会は伊藤ワイズの司会により古田新会長の点鐘によって開会された。ワイズ・ソング、ワイズの信条を唱和した後、田口ワイズ(総主事)より今月の聖句を選んだ理由が述べられた。ビジターは、佐藤部長と部書記の堀田ワイズで、各々よりご挨拶をいただいた。伊藤誠彦ワイズは部会計として、又古賀健一郎ワイズは部会員増強主査として部長随行を兼務した。

今回の食事は崎陽軒から調達した「夏の神奈川味わい弁当」であった。総会の議案にある「会費等に関する施行細則」の改訂を先取りするアクションで食事代と飲み物を含め1,000円以内に収める一つの工夫であった。

司会者により総会成立要件を満たす定足数の発表があり、古田会長を議長として直ちに総会に移った。総会は周到に用意された資料に沿って議事に入った。第1号議案は前年度の事業報告である。舟田直前会長が不在のため、古賀直前副会長より月別ごとの活動報告に加え、会員の異動状況、会員の例会出席状況の他、実績評価が報告され承認された。第2号

議案は各事業委員報告であるが、活動報告の中で報告されたという理解で承認された。第3号議案は会計報告である。単年度の収支は8,814円の赤字であったが繰越剰余金から補填することで承認された。第4号議案のクラブ役員、事業委員は提案通りの陣容で確認された。第5号議案の事業計画はほぼ昨年同様の構想であったが、古田会長が強調したのは更なるYMCA理解と協調であり疑義なく承認された。第6号議案の予算案については昨年度より会員数が4名減員になったことによる予算の縮小案であった。従来チャリティーラン支援金を2チーム分計上していたが本年は1チームに、又10万円のBAPY基金支援金を半額の5万円とした。それでも収支が多少マイナスであったが繰越剰余金で補填することで承認された。当総会の大きな論点は役員会でも議論されてきた会費の減額であった。今回従来の月額5,000円の会費が4,000円に減額することが承認された。但し食事代を会費に含めないことが同時に合意された。従って当日の崎陽軒から調達した弁当代と飲み物代は各自別途に支払った。

総会終了後は定例のビジネスに移り今後の行事予定を確認すると同時に来月に控えた納涼会、9月の日本語スピーチコンテストの実施要領につき協議した。集合写真を撮って定刻の8:30に終了した。



新年度キックオフ例会参加者

## 「第一回湘南・沖縄部評議会報告」

伊藤 誠彦

日時：7月14日(土) 14:00～16:00

場所：横浜中央YMCA 606会議室

佐藤部長(厚木クラブ)のもと湘南・沖縄部の第一回評議会が開催されました。評議会は部則第8条にある通り、部役員及びクラブ役員から構成される部の最高意思決定機関です。

第一回部評議会では次の7議案が審議され、いずれも拍手をもって承認されました。

- ①17-18年度事業報告 金子直前部長が報告
- ②17-18年度収支決算報告及び監査報告 伊藤部会計が会計報告、鈴木部監事が会計監査報告
- ③18-19年度事業計画 佐藤部長が報告
- ④18-19年度予算 伊藤部会計が報告 東日本区からの部員一人当たりの補助金の金額確認、エクステンション委員会活動費の確保の要請があった。
- ⑤エクステンション委員会 佐藤部長より報告 辻委員長(つづきクラブ)が部役員に位置付けられた。
- ⑥19-20年度部運営検討委員会 金子委員長より報告

「次期部長・事業主任研修会」が開催される10月27日迄に結論を出すよう要請があった。

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

⑦次年度次期部長選考委員会 佐藤部長より 20-21 年度次期部長選考委員会メンバーの報告があった。

議案審議の後は、7月7日の東日本区役員会の報告、部会計からのお願い、各事業主査からの報告、各クラブ会長からの報告、YMCAからの報告等があり、監事講評の後、ほぼ定刻に閉会、有志は懇親会の場へと向かった。



第1回湘南・沖縄部評議会出席者

尚、今年度は堀田部書記（厚木クラブ）のご尽力により、湘南・沖縄部Webサイトが開設され、評議会プログラム、配布資料、議事録などが、情報として掲載されていますので参照下さい。<https://shonsnokinawa.jimdofree.com/>からご覧になれます。

横浜クラブ出席者：青木、伊藤、金子、古賀、古田

## 「第25回AIDS文化フォーラム in 横浜報告」

金子 功

8月3日（金）～5日（日）「第25回AIDS文化フォーラム in 横浜」が横浜駅西口に近かながわ県民センターで開催された。今年のテーマは、「#リアルとつながる」で、昨年の「リアルとであう」を延長したフォーラムであった。オープニングセッションのパネリストとして招かれた4人のHIV・エイズ患者、性的マイノリティー（LGBT）代表者は「自分の理解者がいる」、「自分を受け入れる社会がある」と「つながり」を感じた時の喜びを各自の体験から表明した。会場は看護学生、性教育に携わる教育関係者で埋め尽くされ、25年間も継続している当フォーラムの意義を感じさせた。オープニングセッションに続き30以上の個別分科会も開催され3日間にわたる



田口総主事の挨拶

であった。

このAIDS文化フォーラム in 横浜は25年前に横浜で国際AIDS会議が開かれた後、横浜YMCAが事務局となって、各種市民団体を中心に実行委員会を結成して例年運営しているもので、ワイズメンズクラブ東日本区も協賛しているほか、湘南・沖縄部は組織委員会の一員として協力している。オープニングでは主催者を代表して田口総主事（横浜クラブ）の他、組織委員会の一員として佐藤節子湘南・沖縄部長（厚木クラブ）が挨拶をした。

AIDS文化フォーラムは今や京都、陸前高田、佐賀、名古屋でも開催されるに至っている。

横浜クラブ参加者：大江、金子、田口

## 「近況報告」

遠藤 喜七



このところ、異常気象により多くの人が被害を受け、心よりお見舞い申し上げます。

私も、在籍しながら、仕事の都合で、出席できず、心苦しく感じて居るところ

です。

マンション管理を担当させて頂いていると、いろんな苦を背負い生活されている方々があり、私どもは奉仕できる豊かな心を持つことに、感謝せざるをえません。

又、個人的には、やんちゃだった息子が、高校野球の監督として、9人の生徒で8年ぶりに3回戦まで出場し、教育者として、野球を通じて、生徒の成長と自分の成長を思う真の談話が新聞に掲載され、嬉しく感動しました。

秋には、我々年寄夫婦を田舎へ、先祖の墓参りをしながら、ありがたいことに1泊2日の温泉旅行に連れて行ってくれるようで、苦勞して育てた家内は、感動しきりです。簡単ですが近況報告とさせていただきます。

## 「近況報告」

押川 幸男



今年の4月より、群馬県沼田市の沼田教会と認定こども園恵泉幼稚園に赴任しました。

2歳児の保育に関わるために、もっと言えば2歳児へのモンテッソーリ・メソッドを行うために赴任しました。もう一つの理由は、残り少ない人生で一度単身赴任を経験してみたいと思い、

人事に相談した結果です。現在の赴任先は3歳以上の幼稚園単独型の認定こども園ですが、今年の9月からは週一回午前中2歳児を対象にしたモンテ教室を開く予定です。全園児で23名ですが、認定こども園に移行したことで、経営が安定しています。少人数保育でも充分やっていけるので、一人ひとりを大切にするキリスト教教育にとってもふさわしい規模です。ただし、預かり保育の長時間化などいくつかの課題もありますが、地方の教会付属の幼稚園が生き残るためには、認定こども園への移行しかないように、私は思います。

私はこれまで地方の教会、都会の教会、幼稚園のある教会、幼稚園のない教会、様々な教会を経験してきましたが、今思うことは、幼稚園や付属施設があることによって聖書の話も子どもたちや保護者に話す場や機会が多く与えられていることは、それだけで大変恵まれていることだと気付かされています。その見えない恵みに気づき、その恵みを見える化する作業をこれからも続けていきたいと思っています。今現在、地方と都会を行き来する中で、多くのことに気付かされています。特に久しぶりに会う友との語らいの大切さを実感しています。そして、8月納涼例会での横浜ワイズの方々と久しぶりの再会もその一つです。共に語る場があることの大切さを改めて実感する機会となることを楽しみにしています。

## 第二例会報告

古田 和彦

日 時：7月26日(木) 17:00~18:45  
 場 所：中央YMCA 607号室  
 出席者：青木、伊藤、大高、金子、古賀、古田  
 協議・確認・検討事項

- 1) 行事予定
  - ・7月~9月の行事予定確認
  - ・8月23日予定の第2例会は午後5時から行う。
- 2) とつか・鎌倉クラブ合同納涼会(8/21)への対応
  - ・金子書記がクラブメンバーに問合せ、まとめて申し込む。
- 3) 横浜クラブ8月例会・納涼会実施要領の確認
  - ・8月23日(木) 18:30~20:30 於 驛の食卓
  - ・総合司会：今村ワイズ 会費：昨年同様 5,000円
  - ・湘南地区各クラブ、これまでの参加者へは会長・書記から案内
- 4) 第6回日本語スピーチコンテスト
  - ・9月5日(水)
  - コンテスト10時~12時 於 神奈川県民ホール小ホール
  - 交流会13時~14時 於 中央YMCA 8階教室
  - ・今年度から厚木ワイズとの共催とする。
  - ・役割：審査員(金子、小松<厚木>)、交流会司会(古賀)、閉会挨拶(厚木)
  - ・東日本区地域奉仕・YMCAサービス事業主任に本プログラムの区内への周知をお願いする。(古田会長が依頼する)
- 5) 熊本スピリットクラブとのDBC
  - ・10/8.9 熊本に伺い、DBC前段階の交流を行う。また、11月ごろに熊本から当クラブ訪問希望あり。
- 6) 卓話予定 9月：「横浜YMCA日本語事業」平岡守氏
- 7) 西日本豪雨災害支援は8,9,10月例会にて支援募金を集める。
- 8) 8月ブリテン編集計画
- 9) 例会時の弁当準備 9月(古田)、10月(伊藤)、11月(大高)とする。なお、1回1,000円とし、最終月(2019/6)に一括して徴収する。



担当主事 青木 一弘

○西日本豪雨災害緊急支援募金のお願い  
 期間：2018年7月14日(土)~10月31日(水)  
 西日本を襲った記録的豪雨では、多くの方が被害に合い、今も多くの地域で土砂崩れなど生活道路が通行止めになり、孤立状態にあります。また、生活の復旧には長期化が見込まれており、真夏日の高温が続き、復旧は非常に厳しい状況にあります。YMCAでは、被災地でのボランティアワーク等の支援に留まらず、中長期的な視野に立って人びとの困難に、息長く寄り添っていきます。コミュニティの復興支援を目指し、全国のネットワークや特性を活かした活動を展開していきます。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

○三浦 YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジからのお知らせ



2018年4月より県立YMCA三浦ふれあいの村から三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ

として生まれ変わりました。ここでは、家族から団体までシーカヤックや磯の観察などのマリンプログラムを中心に、海や森の自然を感じながら、人とのふれあいを体感することができます。海を舞台とした最高のロケーションで、充実した野外キャンプ活動、余暇活動を過ごしてみませんか。  
 お問い合わせ 三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ  
 Tel 046-888-2100 Fax 046-888-2152

### 8月例会プログラム

- 日時：8月23日(木) 18:30~20:30  
 場所：横浜ビール「驛(うまや)の食卓」  
 司会：今村ワイズ
1. 開会点鐘および挨拶・・・・・・・・・・ 古田会長
  2. ワイズソング・ワイズの信条・・・・・・ 全員
  3. 今月の聖句・・・・・・・・・・ 押川ワイズ
  4. ビジネス・報告・・・・・・・・・・ 古田会長
  5. 食前感謝・・・・・・・・・・ 押川ワイズ
  6. 乾杯・・・・・・・・・・ 古田会長
  7. 食事・歓談  
 出席者自己紹介  
 ハワイアン演奏・フラダンス・・・・・・今村ワイズ他
  8. **Happy Birthday** 田口努(5)、田口弥生(11)  
 古賀健一郎(11)、押川沢江(21)
  9. 閉会点鐘・・・・・・・・・・ 古田会長
- 例会報告：古田ワイズ

### 9月の行事

日	曜	時間	行事内容	場 所
4	火	19:00	第82回Y-Ys協議会	中央Y
5	水	10:00	第6回日本語スピーチコンテスト	神奈川県民ホール(小ホール)
13	木	18:30	第一例会	中央Y
15	土	14:00	湘南・沖縄部大会	レンブラントホテル厚木
27	木	17:00	第二例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。  
 メール aoki\_kazuhiro@yokohamaymca.org  
 電話 045-641-5785